

畜産みやぎ

題 字
宮城県知事 村井嘉浩
発 行 所
仙台市宮城野区安養寺三丁目11番24号 一般社団法人 宮城県畜産協会 電話 022-298-8473
編 集 発 行人
佐々木 琢 磨
印 刷 所
(株)東北プリント



「第73回 東北鞍馬競技大会」(令和5年4月16日 涌谷町)

もくじ

CONTENTS

令和5年度多様で特色ある県畜産物の 生産消費促進事業について.....	2	牛五種混合ワクチン予防接種の生産者負担金が 変わりました!.....	8
令和4年度生乳需給状況及び 令和5年度生乳出荷目標について.....	3	価格安定対策事業の発動状況について.....	8
令和4年度家畜共済事業実績について.....	4	衛生便り.....	9
令和5年度全農宮城県本部畜産部の事業方針.....	5-6	農業大学校生の抱負.....	9
畜舎等の建築等及び利用の特例に関する 法律施行規則等の一部改正について.....	6	New face.....	10-12
畜試便り.....	7		
第58回宮城県ブラックアンドホワイトショウ開催の お知らせ.....	8		



みやぎの
畜産情報
発信基地

宮城県畜産協会ホームページ

U R L <http://miyagi.lin.gr.jp>

畜産みやぎは上記ホームページからもご覧いただけます。



令和5年度多様で特色ある県畜産物の生産消費促進事業について

宮城県農政部畜産課

宮城県では、意欲ある中小規模の採卵養鶏・養豚生産者を支援し、畜産の労働生産性向上・食品産業との連携強化による持続的な地産地消を推進するため「令和5年度多様で特色ある県畜産物の生産消費促進事業」を実施します。

(1) 消費促進活動支援メニュー

持続的な地消のために、生産物の付加価値を向上させ、販路を定着させましょう！

県内の独自銘柄（ブランド）の卵・豚肉、それらを利用した商品の消費促進を目的とした販売会への出展費用やフェア開催経費を補助します。自ら生産銘柄を販売している方が本メニューを活用することはもちろん、取引先に活用を働きかければ、生産物の消費拡大につながります。

【対象者】

- ・自ら販売する採卵養鶏・養豚生産者
- ・県内に事業所を有する食品販売事業者

【補助額】 補助率1/2・事業費上限1,000千円（最大補助額500千円）

【問合せ先】 農政部畜産課生産振興班

(2) ICT・IoT等技術導入支援メニュー

持続的な地産の実現には、安定した生産体制が必要不可欠！

生産性向上や省力化を目的としたICT・IoT等の先端技術の生産現場への導入経費を補助し、既存の飼養規模でも生産性を向上させたい方・人手不足にお困りの方・より品質を高めたい方等を支援します。

【対象者】

採卵養鶏：20万羽未満 養豚：1万頭未満の県内を拠点とする生産者

【補助額】

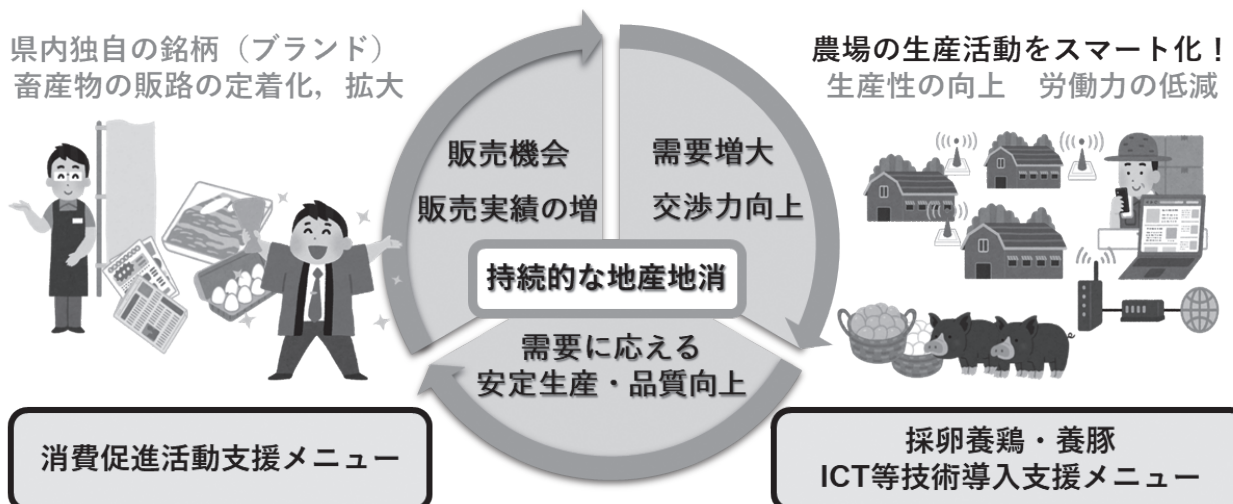
① ネット環境セットメニュー

ICT・IoT等技術導入にあたり、ネット環境の整備が必要となる場合、補助率1/2・1戸あたり事業費最大補助額12,000千円（上限6,000千円）

② 機器単独メニュー

ICT・IoT等技術導入において、ネット環境の整備が不要である場合、補助率1/2・1戸あたり事業費最大補助額8,000千円（上限4,000千円）

【問合せ先】 所管の家畜保健衛生所等



令和4年度生乳需給状況及び令和5年度生乳出荷目標について

東北生乳販連宮城支所
みやぎの酪農農業協同組合

1. 令和4年度生乳需給状況

生乳需給緩和状況が続き生産抑制対策に取り組んでいる中、宮城県の令和4年度の受託乳量は104,743トﾝ、前年同期比97.4%の実績となりました。また、出荷戸数は358戸と前年より35戸減少しました。

2. 令和5年度生乳出荷目標数量

(一社)中央酪農会議では、令和3年度から3年間の増産・維持を基本とする中期需給安定化対策に取り組んでおり、令和5年度は最終年度であります。一定の需給均衡を図るため、国産生乳需要量を基本とした抑制型の出荷目標数量とする方針を踏まえ、宮城県の出荷目標数量は103,655トﾝ、前年比99%に設定しました。

令和4年度宮城県生乳受託販売実績

(単位：kg、%)

月 団体名	4月			5月			6月			第1四半期	
	出荷戸数	前年比		出荷戸数	前年比		出荷戸数	前年比		前年比	
みやぎの	5,624,205	223	102.0	5,795,718	222	102.8	5,464,880	221	101.3	16,884,803	102.0
全農宮城	1,382,828	62	92.5	1,408,404	61	92.4	1,310,342	60	91.9	4,101,574	92.3
宮城酪農	2,275,747	101	97.7	2,300,314	99	94.4	2,168,516	99	94.4	6,744,577	95.5
宮城県	9,282,780	386	99.4	9,504,436	382	99.0	8,943,738	380	98.1	27,730,954	98.8

月 団体名	7月			8月			9月			第2四半期	
	出荷戸数	前年比		出荷戸数	前年比		出荷戸数	前年比		前年比	
みやぎの	5,487,304	221	104.7	5,356,525	219	101.4	5,119,807	219	101.0	15,963,636	102.4
全農宮城	1,303,028	60	93.5	1,236,283	59	91.8	1,186,535	59	89.4	3,725,846	91.6
宮城酪農	2,193,422	99	94.8	2,148,053	98	95.9	2,081,022	96	95.4	6,422,497	95.4
宮城県	8,983,754	380	100.4	8,740,861	376	98.6	8,387,364	374	97.8	26,111,979	99.0

月 団体名	10月			11月			12月			第3四半期	
	出荷戸数	前年比		出荷戸数	前年比		出荷戸数	前年比		前年比	
みやぎの	5,356,918	216	101.9	5,032,155	215	99.2	5,240,767	214	97.6	15,629,840	99.5
全農宮城	1,205,898	58	89.9	1,142,585	58	89.1	1,186,453	58	88.6	3,534,936	89.2
宮城酪農	2,127,216	96	95.3	2,053,910	96	94.7	2,144,703	96	94.0	6,325,829	94.6
宮城県	8,690,032	370	98.4	8,228,650	369	96.5	8,571,923	368	95.3	25,490,605	96.7

月 団体名	1月			2月			3月			第4四半期	
	出荷戸数	前年比		出荷戸数	前年比		出荷戸数	前年比		前年比	
みやぎの	5,348,058	212	100.0	4,763,672	210	93.9	5,348,710	209	94.8	15,460,440	96.3
全農宮城	1,207,028	57	88.0	1,111,541	56	88.1	1,247,667	56	87.8	3,566,236	88.0
宮城酪農	2,179,865	94	95.0	1,993,894	94	96.3	2,209,526	93	95.3	6,383,285	95.5
宮城県	8,734,951	363	96.9	7,869,107	360	93.7	8,805,903	358	93.9	25,409,961	94.8

月 団体名	R4年度計		
	出荷戸数	前年比	
みやぎの	63,938,719		100.1
全農宮城	14,928,592		90.3
宮城酪農	25,876,188		95.3
宮城県	104,743,499		97.4

(販売課 日野裕治)

令和4年度家畜共済事業実績について

NOSA I宮城

令和4年度の家畜共済事業実績を報告します。

畜産業を営む農業者の廃業等により戸数の減少傾向が続いている影響により引受頭数は延べ216,976頭（前年比97.6%）となりました。

共済金額では、令和4年度適用の共済価額が低落しておりますが、新規加入等により61,039,129千円（前年比100.5%）となりました。

死廃事故頭数は前年度と比較し、乳用牛は134頭減少しましたが肉用牛成牛及び子牛・胎児は146頭増加し、全体で8頭の増加（前年比100.1%）となりました。病類別では胎児過大による事故が増加しているほか、子牛の循環器病・消化器病の事故が増加しております。

病傷事故件数は前年度と比較し、乳用牛は1,491件減少、肉用牛は49件増加し、全体として1,443件減少（前年比96.7%）となりました。病類別では、乳用成牛の生殖器病が734件減少しておりますが、肉用成牛の呼吸器病が542件増、肉用子牛の消化器病が103件増加しております。

支払共済金は、死廃事故においては853,944千円となり前年度よりも69,013千円減少（前年比92.5%）しました。事故頭数は増加しておりますが、事故家畜の評価額において搾乳牛93,000千円、育成肥育子牛が約1億円低落したことが影響しています。また、牛伝染性リンパ腫による事故頭数は145頭（前年比4頭増加）で支払共済金は56,420千円（全体の6.6%）となっており、増加傾向であることが懸念されます。

病傷事故は、580,575千円となり前年度よりも19,824千円減少（前年比96.7%）しています。要因として、乳用牛の支払共済金が17,221千円減少していることが挙げられます。しかし、肉用子牛においては、3,968千円増加しており子牛に係る事故が依然として多発しています。

令和4年度家畜共済事業実績

		引受（加入）			死廃事故			病傷事故					
		頭数 頭	共済金額 千円	共済金額前年比 %	頭数 頭	支払共済金 千円	共済金前年比 %	件数 件	支払共済金 千円	共済金前年比 %			
新 制	乳用牛	19,582	4,685,577	93.2	1,370	215,401	86.8	/					
	肉用牛	118,123	55,165,523	101.3	3,476	638,485	94.6						
	馬	4	2,858	138.7	0	0	-						
	種豚	1,911	129,550	99.2	0	0	-						
	肉豚	13,718	142,667	85.2	11	58	63.3						
	計	153,338	60,126,176	100.6	4,857	853,944	92.5						
度 疾 病 傷 害	乳用牛	14,178	234,865	90.2	/						9,251	153,213	89.9
	肉用牛	49,427	677,872	97.8							34,273	427,349	99.4
	馬	4	86	116.4							0	0	-
	種豚	29	130	72.2							2	13	40.2
	計	63,638	912,954	95.7							43,526	580,575	96.7
合計	216,976	61,039,129	100.5	4,857	853,944	92.5	43,526	580,575	96.7				

妊娠中の親牛の飼養管理改善やワクチン接種などにより事故の未然防止に取り組んでいきましょう。また、子牛の呼吸器・消化器の疾病や周産期の疾病、乳房炎、繁殖障害は依然として多発しています。引き続き損害防止に取り組ましましょう。

NOSA I宮城では、畜産経営安定のため、これからも丁寧な説明に心がけて加入推進してまいりますので、制度や補償内容についてお気軽にお尋ねください。

(第二事業部家畜課 長江達哉)

令和5年度 全農宮城県本部畜産部の事業方針

全農宮城県本部畜産部

生産場面では、高齢化の進展、担い手不在による廃業の増加、そして飼養戸数・頭数の減少など、生産基盤の弱体化が懸念される状況が依然として続いている。

そうした中、新型コロナウイルス感染症、ロシアによるウクライナ侵攻、加えて為替の円安など、国内経済への影響は計り知れず、配合飼料をはじめとした生産資材価格の高騰や、糞尿処理等の環境問題や法令対応に係る施設修繕・衛生対策費用、規模拡大に伴う事故率の上昇・繁殖成績の悪化など、生産費の増加が畜産農家の経営を圧迫し、更には、畜産事業に係る時代や社会の要請として、SDGs、みどりの食糧システム戦略、アニマルウェルフェアへの対応が求められている。

一方、消費場面では、新型コロナウイルス感染症の発生に伴い、ECサイトによる通信販売が急激に拡大するなど、政府が示した「新しい生活様式」の実践例により消費構造や消費ニーズが大きく変化している。

また、和牛肉については、生産基盤対策の効果による出荷頭数の拡大に伴い供給量が増加する一方で、物価の高騰により消費マインドの減退による需要の減少が懸念される。

こうした状況から、生産費の高騰が続き生産物の販売価格が低迷する厳しい情勢において、畜産農家の環境変化に耐え得る足腰の強い経営の確立を目指した生産性向上対策、そして消費者ニーズへ対応した生産・販売対策が求められる。

J Aグループとして、県行政等関係機関と連携し、耕畜複合経営や地域内耕畜連携による水田を活用した資源循環型農業の推進、作業の外部委託に係る仕組みづくりによる労働力負担の軽減や規模拡大のサポートの推進、そしてスマート技術の普及と導入支援などによる生産性向上対策の推進に取り組むとともに、畜産経営担い手育成研修事業をはじめとした、知識・技術の習得による人材育成、担い手への活動支援に取り組むなど、地域の生産基盤の維持・強化を図る。

さらに、県本部として、子牛市場を核とした需要を踏まえた、和牛の育種・改良・生産指導事業の強化、魅力ある市場運営、そしてブランド力・輸出対応の強化など、販売戦略の構築・実践に取り組み、販売力を強化する。

特に、和牛生産基盤の維持・拡大に向けて、優良雌牛の保留強化、県内雌牛集団の整備を進め、発育良好で産肉能力・種牛能力に優れた子牛生産の促進に取り組む。また、分娩間隔の短縮、子牛の適正出荷の促進、乳用牛による和牛受精卵移植の普及拡大、和牛繁殖農家における飼養頭数の拡大など、生産性の向上とあわせた中長期的な増頭計画の策定・実践に取り組み、個々の和牛繁殖農家の所得増大、そして中核となる家族経営体の担い手確保を図る。

また、昨年開催された「第12回全共鹿児島大会」に係る総括を踏まえ、4年後に開催される「第13回全共北海道大会」に向けて、食味の向上が期待される「脂肪の質」の改良体制の構築、「地域の特色ある牛づくり」の充実など、更なる飛躍を目指して着実に準備を進め、本県の和牛育種・改良事業の一層の発展と畜産振興を図る。

1. 畜産生産基盤維持・拡大の取組強化（繁殖牛生産基盤の維持・拡大）

- (1) J A及び各地域育種・改良組合と連携した生産指導の実施
- (2) 飼養管理改善による和牛生産効率の向上（分娩間隔の短縮促進（2030年目標：年1産））
- (3) 簡易牛舎貸付事業による維持・拡大
- (4) 初妊牛生産事業による和牛繁殖牛供給・優良子牛生産
- (5) 優良雌牛保留対策事業による優良雌牛保留

2. 家畜市場事業の取組強化

- (1) 子牛市場取扱頭数の維持・拡大
- (2) 子牛市場における適正出荷の促進（2030年目標：平均出荷日令270日）

3. 肉畜販売事業の取組強化

- (1) 仙台牛・仙台黒毛和牛、宮城野豚・しもふりレッド等銘柄推進と販売強化
- (2) SNSやECサイト等を利用した販売促進など地産地消・消費拡大の取組強化と指定店等フェアや独自企画など購買者・指定店等との連携による販売強化
- (3) 牛肉輸出事業の取り組み

4. 生乳計画生産の取組強化

- (1) 酪農生産基盤の維持・拡大及び計画的な生乳生産の着実な実行
- (2) 生乳流通体制合理化への取り組み

5. 全国和牛能力共進会対策の取組強化（出品対策事業の強化）

- (1) 第13回全国和牛能力共進会宮城県出品対策協議会の設立
- (2) 食味の向上が期待される「脂肪の質」の改良体制の構築
- (3) 宮城の特色ある繁殖基盤整備

6. 担い手活動取り組み強化

- (1) J Aグループ宮城畜産担い手育成事業による担い手育成・組織活動強化

7. 生産振興事業取り組み強化（畜産クラスター事業への取り組み）

- (1) 水田を活用した自給飼料や飼料用米の利用拡大など、耕畜複合経営や地域内乳肉複合・耕畜連携による資源循環型畜産の推進
- (2) コントラクターなど一部作業の外部委託による労力軽減や規模拡大の推進

(畜産部 安斎彰洋)

畜舎等の建築等及び利用の特例に関する法律施行規則等の一部改正について

宮城県農政部畜産課

畜舎等の建築等及び利用の特例に関する法律（令和3年5月19日法律第34号。以下、「畜舎特例法」という。）の施行から1年が経過しました。昨年度、宮城県内では10件（16棟）の認定申請があり、新たな制度を活用した畜舎等の建築が進められているところです。

さて、国では畜産業の国際競争力強化に向けて更なるコスト削減のため、「畜舎等」の対象に畜産業の用に供する農業用機械や飼料・敷料の保管庫等の追加について必要な措置を講じるとしていましたが、令和5年4月1日に畜舎特例法施行規則等の一部が改正され、「倉庫」「車庫」「貯水施設（水質浄化施設）」「高さが8mを超える発酵槽（付属する制御施設を含む）」が新たに認定対象に追加されました。これにより、これらの建築物も建築基準法に比べて緩和された技術基準（A構造・B構造・発酵槽）で建築することが可能となり、一定の条件（倉庫は床面積3,000平方メートル以下、車庫は床面積500平方メートル以下で周囲の建物との間に6メートル以上の距離を確保できること。）を満たせば、建築基準法に比べて防火基準を緩和することができます。一方で、防火基準を緩和する場合には新たに追加される利用基準（①滞在密度の制限、②必要な採光を行う、③火気を使用しない、④消火器の設置及び適切な維持管理、⑤主務大臣が定める物品以外の保管の制限、⑥物品と車両を同一の畜舎内で保管する場合は間仕切り等を行う）を遵守する必要があります。当制度の詳細につきましては、農林水産省や宮城県農政部畜産課のホームページに掲載しておりますのでご確認ください。

(草地飼料班 芳賀慎太郎)

〈畜試便り〉

新しい飼料作物奨励品種の紹介

宮城県畜産試験場

畜産試験場では、県内における栽培に適した飼料作物の選定を行うため、栽培試験を実施し品種の生産性・生育特性を調査しています。今回は、新しく宮城県の飼料作物奨励品種に指定された飼料用トウモロコシ1品種について紹介します。

[飼料用トウモロコシ]

飼料用トウモロコシ品種「パイオニア108日（品種名：34N84）」が3年間（令和2年～令和4年）の品種比較栽培試験の結果、奨励品種に指定されました。「パイオニア108日」は耐倒伏性に優れる特徴を持っています。栽培管理については、「牧草・飼料作物（県奨励品種）栽培の手引き」を基本としてください。

表1 主要な品種特性

商品名	早晩性	メーカー RM	乾物 収量	TDN 収量	耐倒 伏性	耐病性	赤カビ 耐性	特徴	栽植本数の目安 (本/10a)
パイオニア108日	早生	108	○	○	◎	○	○	耐倒伏性に優れる	6,800～7,200

凡例 ◎：優れる、○：並

※畜産試験場において5月上旬に播種し、発芽から収穫期までの調査結果（R2～R4）による。

表2 初期成育および熟期（畜産試験場3か年平均）

商品名	播種日	発芽日	雄穂 抽出期	雄穂 開花期	絹糸 抽出期	黄熟期
パイオニア108日	5/7	5/14	7/18	7/19	7/18	8/28
パイオニア106日※	5/7	5/14	7/15	7/16	7/14	8/27

※早生標準品種

表3 収量性（畜産試験場3か年平均）

商品名	収穫日	茎葉乾物重 (kg/10a)	雌穂乾物重 (kg/10a)	総体乾物重 (kg/10a)	乾物雌穂重 割合(%)	TDN収量 (kg/10a)
パイオニア108日	8/30	873	880	1,753	50.2	1,256
パイオニア106日	8/30	815	948	1,763	53.7	1,280

(草地飼料部 杉本達郎)

第58回宮城県ブラックアンドホワイトショウ開催のお知らせ

宮城県ホルスタイン改良同志会

ホルスタイン種の改良、普及奨励並びに飼育管理・育成技術の研鑽と併せ、会員の親睦を図ることを目的とした、第58回宮城県ブラックアンドホワイトショウを以下のとおり開催することとなりました。

- 1 開催日 令和5年6月24日(土) 午前9時50分開会
- 2 場所 みやぎ総合家畜市場(美里町)
- 3 審査員 一般社団法人家畜改良事業団 林田 光 氏
- 4 出品区分

未經産		経産	
第1部	生後12ヶ月未満	第5部	生後36ヶ月未満
第2部	生後12ヶ月以上～16ヶ月未満	第6部	生後36ヶ月以上～48ヶ月未満
第3部	生後16ヶ月以上～20ヶ月未満	第7部	生後48ヶ月以上～60ヶ月未満
第4部	生後20ヶ月以上	第8部	生後60ヶ月以上

(事務局 一般社団法人宮城県畜産協会家畜改良課)

牛五種混合ワクチン予防接種の生産者負担金が変わりました！

一般社団法人 宮城県畜産協会

製造メーカーの値上げに伴い、令和5年4月1日実施分より 改定いたしました。

改正後	改正前	差額
2,450円/頭	2,340円/頭	110円増

※その他の予防接種生産者負担金に変更は有りません。

【生産者の皆様へ】

接種前に家畜の健康観察を行ってください。
接種時には、必ず立ち会い、保定をお願いいたします。

(家畜衛生課 早坂翔太)

価格安定対策事業の発動状況について

一般社団法人 宮城県畜産協会

◎肉用牛肥育経営安定交付金(牛マルキン)の交付金単価

販売月	肉専用種(宮城県)	交雑種(全国)	乳用種(全国)	
令和5年1月	(概算払)	(53,024.6円)	(8,301.8円)	(38,878.4円)
	精算払	57,925.8円	12,947.4円	43,470.9円
2月	(概算払)	(78,661.1円)	(40,604.6円)	(40,496.6円)
	精算払	84,192.3円	46,034.1円	45,992.7円
3月	精算払	87,003.9円	10,440.0円	56,792.7円

◎肉用子牛生産者補給金(子牛補給金)の交付金単価 令和4年度第4四半期(1～3月)

	黒毛和種	褐毛和種	その他の肉専用種	乳用種	交雑種
補給金単価	—	—	67,630円	15,900円	—

◎肉豚経営安定交付金(豚マルキン)の交付金単価 令和4年度第1～4四半期 交付なし

<衛生便り>

蜜蜂を飼育している皆様へ

宮城県大河原家畜保健衛生所

近年、養蜂を始める方が増加しています。蜂蜜の自家消費が目的で、数群飼育される方も増えていきます。

蜜蜂（セイヨウミツバチ、ニホンミツバチ）を飼育する場合、蜂蜜等の生産物販売にかかわらず、飼育届が必要です。最寄りの家畜保健衛生所指導班にお問い合わせください。

蜜蜂は、巣箱から2～5km程の範囲まで飛んで、採餌します。つまり、巣箱から5km以内の採餌できる花の数より蜜蜂の数が多いと、飼育がうまくいきません。このため、飼育蜂群数によっては、配置調整（巣箱をどこへ置くか）が必要になります。養蜂業者の方々は、採餌に適した樹木や草花の植栽など、蜜源の確保に努力されています。御理解・御協力をお願いいたします。

さて、他の動物と同様に、蜜蜂にも伝染病があります。使用できる薬剤が少ないため、巣箱の消毒等による予防が重要になります。

- ・腐蛆病（ふそびょう）：幼虫がふそ病菌を含む餌を摂取することで、発症し、死亡します。発生した場合、家保への届出が必要です。薬剤による予防が可能ですが、蜂蜜に残留するので、用量・用法を守って使用してください。
- ・バロア病：蜜蜂の外部にミツバチヘギイタダニが寄生して、弱らせて経済的被害を与えます。殺ダニ剤により対策します。
- ・チョーク病：真菌（カビ）が幼虫に感染し、さなぎの時期に白く固まって死亡します。
- ・ノゼマ病：ノゼマ原虫が消化管に寄生し、下痢のような症状が発現し、寿命が短くなります。
- ・アカリンダニ症：アカリンダニが気管内に寄生し、寄生数が増えたと飛ぶことができなくなり、死亡します。

また、稲作・果樹農家などで使用する農薬が蜜蜂に影響することがあります。積極的に蜂場周囲の農家と情報共有しましょう。農薬散布時に巣箱を近づけないことが一番の対策です。農薬散布時に巣箱を一時避難するなどの対策をお願いします。

(防疫班 加藤里子)

<農業大学校生の抱負>

牛に関わる仕事に就くということ

宮城県農業大学校 畜産学部 2学年 橋本 七海



私の家は非農家です。そんな私が畜産業に携わろうと思ったきっかけは、高校生の頃に獣医師の仕事を経験させて頂いたことです。もともとは、伴侶動物の獣医師になることが夢でした。そのことを親戚に話したら、産業動物の獣医師の仕事もあると教えてもらい、なんとなく興味を惹かれ、体験会に参加しようと決めました。

体験中、ある農家さんに訪問した際、人懐っこい牛に一目ぼれしました。それから私は、牛に関わる仕事に就きたいと思うようになりました。

しかし、かわいいと思うだけではやっていけない世界だということを、宮城県農業大学校に入学してから身近に感じています。牛を飼育するにあたって、課題は多々あります。飼料価格高騰や排せつ物の処理等、数えきれないほどです。このままでは、

将来、畜産という産業がなくなってしまうのではないかと私は危惧しています。牛に関わる仕事に就くということは、これらの課題も同時に抱えていく覚悟が必要です。

覚悟を決めた今、私は日々畜産について学んでいます。牛についてはもちろん、牛の糞を利用した堆肥や飼料等、幅広く知識を身につける努力は怠りません。座学だけでは分からないことは、実習で身につけています。牛一頭一頭の性格や牛に適した環境等は、実習でなければ分からないことばかりでした。

私の今の夢は、家畜人工授精師になり日本の畜産業に貢献することです。牛の命を生み出すことも、畜産業や牛に関わる上で覚悟が必要なことだと思います。そんな厳しい世界でも挑戦しようと思うのは、高校生の頃に畜産という世界を教えてくださいました獣医師の方や農家さんのように、牛を愛したいと思うからです。その為には私は今、家畜人工授精師になるため日々勉強に励んでいます。畜産業に微力ながら貢献できるよう、努力をし続けて参ります。

〈New face〉

宮城県大河原家畜保健衛生所

蝦名 由璃子



はじめまして。令和4年11月から宮城県大河原家畜保健衛生所に配属されました蝦名由璃子（えびなゆりこ）と申します。出身は宮城県仙台市で令和3年3月に岩手大学農学部を卒業しました。大学では、動物遺伝育種学研究室に所属し、凍結した始原生殖細胞の遊走性について研究を行ってきました。大学の講義は座学だけでなく実習も充実しており、多くのことを学ぶことができました。卒業後は、不妊治療専門のクリニックで胚培養士として勤務した後、宮城県職員として再就職させていただくこと

になりました。

私の業務内容は、家畜の改良増殖に関する業務のほか、人工授精や家畜商、自給飼料生産に関する業務など多岐にわたっています。生殖分野は大学時代から興味があった分野であり、こうして県の家畜改良増殖に携わることができることにとってもやりがいを感じています。能力の高い牛を県内で生産することが県の畜産の発展につながると思いますので、これからも精一杯公務に励みたいと思っています。

また、日々の業務だけではなく、高病原性鳥インフルエンザの対応など、県の畜産職員が担う責任の重さを実感する機会が多くありました。自分の責務を果たすためにも、常に勉強する姿勢を忘れず、一日でもはやく宮城県の畜産の発展に貢献できればと思います。

入庁して半年が経ちましたが、自分の知識不足と経験不足を感じる毎日です。これから、職場の先輩方にご指導いただきながら、一人前の県職員になれるよう精一杯努力したいと思っています。至らぬ点多くあると思いますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひします。

宮城県大河原家畜保健衛生所

井上 長青



今年度から宮城県大河原家畜保健衛生所の防疫班に配属になりました、井上長青（たけはる）と申します。出身は宮城県仙台市で、鹿児島大学の獣医学科を卒業しました。遠く離れた九州から6年ぶりに地元の宮城県に戻ってきたため、当初は気候の変化に戸惑いましたが、ようやく身体が慣れてまいりました。

大学では組織病理学研究室に所属し、動物の病気の成り立ちやその結果として現れる病変について幅広く学んでおりました。鹿児島県の出水平野という場所には世界有数のツルの渡来地があり、卒業論文ではツルに感染するコクシジウムという寄生虫をテーマに研究に取り組みました。また、犬や猫などの伴侶動物から牛、豚、馬、鶏などの産業動物、アナグマやヤマネコ、そしてツルなどの野生動物の病理解剖や組織診断についても関わらせていただく機会があり、少しでもその経験を生かせればと考えております。

一方で、大学での勉強は主に動物の病気に関することが主となっていたため、畜産の領域については恥ずかしながら知らないことばかりであり、これから数多くのことを学んでいかなければと考えております。

宮城県は豚熱や鳥インフルエンザの脅威が続いている状況であり、防疫業務が特に重要となっていると思います。そうした中でこれらの重大な家畜伝染病の発生を未然に防ぎ、そして万が一発生してしまったときには迅速に対応することができるよう、諸先輩方にご指導いただきながら真摯に取り組んでまいります。どうぞよろしくお願ひいたします。

宮城県北部家畜保健衛生所

秋山 桂花



はじめまして、4月から宮城県北部家畜保健衛生所の防疫班に配属されました、秋山桂花（あきやまけいか）と申します。出身は宮城県仙台市です。この春岩手大学を卒業して6年暮らした盛岡から戻ってきました。大学では生理学研究室に所属し、犬乳腺腫瘍細胞に対する成長因子の効果を研究していました。発揮する場面があるかわかりませんが、培養細胞を使っていたため無菌操作は得意です。低学年の頃はワンダーフォーゲル部で夏は登山、冬はスノーボードを楽しんでいました。コロナ禍と研究室

生活で大学生活後半はなかなか山に行けなかったもので、これからは休日を利用して宮城の山々を登ってみたいのです。おすすめの山があったらぜひ教えてください（岩手県だと早池峰山が好みです）。趣味はライブやフェスに行くことです。コロナ禍で映画鑑賞も趣味に加わりました。

大学6年次は講義・実習がなく、研究室にはマウスしかいなかったため、家畜と触れ合うのはほぼ1年ぶりです。大動物に力を入れていて比較的牛関連の実習が多い大学ではありましたが、大学病院と農場とでは環境が全く異なっており、採材に手間取ってしまうことも少なくありません。畜産の知識が足りないため農家のお話を理解できず、もどかしく感じる機会も多いです。優しい先輩方や農家のご指導のおかげで1か月前から多少は成長できたと思いますが、一人前には程遠いと痛感しております。焦らず着実に経験と知識を蓄えていき、宮城県の畜産振興に貢献できるような県職員になりたいです。ご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

公益社団法人みやぎ農業振興公社

畜産振興部畜産振興班 主事 鈴木 魁人



はじめまして。令和5年4月より畜産振興部畜産振興班に配属になりました鈴木魁人と申します。宮城大学事業構想学群地域創生学類を卒業し、主事として勤務しております。出身は宮城県仙台市で仙台新港の近くの蒲生で育ちました。

私は畜産について、あまり知らずに学生生活を過ごしてきました。大学のゼミでは主に土壌について学びました。卒業論文は「石巻市長面地区の津波復旧農地における塩水化の動態」について調査し、まとめました。私は公社が卒業論文の調査圃場の集

積に関わっていたことや塩害について調査する業務を行っていたことを知り、農業に深く関係している公社に興味を持ちました。

現在の仕事は主にパソコンを使う業務で、操作方法が分からず、作業の時間と操作方法を調べる時間が半々になっているのが現状です。時間をかけて作成した資料も誤りが多く、手取り足取りご指導くださる先輩方には本当に頭の下がる思いです。この先業務上必要になる資格もあります。仕事と勉強の両立を図るためにも、いち早く環境に慣れて社会人として充実した生活を送りたいです。

話は変わりますが、私にとって畜産とは、まずは牛肉となります。牛肉を使用した料理ではすき焼きが好物です。畜産の生産分野には一度も関わる事がなかったので、一から勉強したいと思います。関係者の皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

知識も仕事も一人前にはほど遠いですが、一つずつできることを増やして、責任ある仕事ができるように努めて参ります。



公益社団法人みやぎ農業振興公社
畜産振興部 白石牧場 技師 田口 翔也

はじめまして。令和5年4月よりみやぎ農業振興公社畜産振興部白石牧場に配属になりました、田口翔也と申します。出身は宮城県仙台市で今年の3月で宮城県農業大学校を卒業しました。

私の実家は畜産農家ではありませんが、柴田農林高校に進学をしたのをきっかけに畜産に出会いました。子供のお世話も好きだった私は子牛を立派な成牛に育てるのに楽しさを感じました。高校1年生の時に参加させてもらった全国和牛能力共進会ではいろいろな地域で育てられた牛たちを見てさらに興味を持ち、将来は畜産従事者になるためにより専門的な畜産の知識を学ぶため宮城県農業大学校に進学を決めました。

進学先の農業大学校では畜産学部生として宮城県畜産試験場で実習をさせていただきました。試験場では種雄牛をはじめとした肉牛の管理を行っていました。意思疎通のできない動物なので牛の扱い方を十分に理解し畜産に関しての多くの知識や技術を学ばせてもらったことで、白石牧場での業務に生かしていくことができていると思っています。

白石牧場では主に子牛の管理や巡視などの基本的な業務から取りかかっています。私はまだ家畜人工授精師の免許を取得できていないので今年の講習会で取得ができれば場内の人工授精を実践していきたいと思っています。まだまだ未熟ではありますが、いち早く業務の流れや作業内容を把握し、滞りがなく業務の行えるように一生懸命努めて参りますのでどうぞよろしく願いいたします。

.....



公益社団法人みやぎ農業振興公社
畜産振興部 白石牧場 技師 大塚 沙絵

はじめまして。この度みやぎ農業振興公社・畜産振興部 白石牧場での採用となりました大塚沙絵です。出身は宮城県仙台市です。高校は柴田農林高校の畜産科を卒業しています。高校2年生になったばかりの春、私が初めて育てた牛「ふたば」が産まれその子をきっかけに牛について学んでいくうちに牛のお世話の仕事がしたい！と強く思うようになりました。卒業後、酪農家に就職し4年4ヶ月経験を積んだ後ご縁が

あり白石牧場で働くことになりました。毎日同じ仕事をしていても同じ日が1日もない、やりがいのある仕事だと日々実感しています。

牛以外にも動物は好きですが、特に猫が好きで小学校2年生の頃からずっと傍には猫が居て一人暮らししている今は気づけば4匹の猫たちに囲まれて暮らしています。仕事では好きな牛を育てて、家に帰れば可愛いねこ達が待っていてくれて大変幸せな毎日を送っています。爬虫類も好きでヒョウモントカゲモドキを飼っていた事もあります！動物たちからは日々、たくさんの癒しを貰っているので恩返しのためと真剣に向き合っていきたいと思っています。

辛く困難な事があっても、牛達に話を聞いてもらいながら乗り越えて、騒がしくも心地良い日々を過ごしたいと思っています。

一生懸命、頑張りますのでよろしく願い致します。